

## 日本遺産認定の兵庫津めぐり

### 大輪田泊から兵庫津への歩み

西暦	和暦	できごと
(奈良時代) 741	天平 13	僧行基が天平年間（729～749）に設置した「摂播五泊」の一つとして大輪田泊が築かれた。 ・他に河尻（尼崎市）、魚住（明石市）、韓（姫路市）、室生（たつの市）。当時の船旅のほぼ1日の行程にあたる。 ・海が深いという利点の半面、風波による浸食を受けやすいため、絶えず修築を必要とする厄介な港でもあった。
(平安時代) 1173	承安 3	平清盛が日宋貿易の拠点とすべく、「経ヶ島」を築造した。 ・風波の被害を受けることが多いため、防波堤の役目を果たす人工島「経ヶ島」を築造した。
(鎌倉時代)		「兵庫津」と呼ばれるようになり、港町も形成された。
(室町時代) 1404	応永 11	足利義満が明との間に勘合貿易をはじめ。 ・明は私貿易を禁止し、官許の証明書・勘合を持った船のみに交易を認めた。兵庫津は日本国における唯一の貿易指定港で人・物・情報が集まり外交の舞台となった。
1445	文安 2	「兵庫北関入船納帳」の記録現存（1964年に発見される） ・年間で優に4千隻を超える船が入港しており、瀬戸内各地から穀物や海産物、建築用材などあらゆる物産が運ばれた。
1469	応仁 3	応仁の乱で山名勢により焼き打ちされ、以後約100年停滞する。
(戦国時代) 1581	天正 9	織田信長の家臣池田恒興が花隈城を破却し、兵庫城を築く
(江戸時代) 1617	元和 3	兵庫津は尼崎藩領となる。1686年に兵庫奉行を置く。
1769	明和 6	幕府領に編入され、兵庫謹番所が置かれる。 ・町の中を西国街道が通り、海陸交通の要衝として、約2万人が暮らす都市として賑わった。 ・北前船が運搬する様々な物資の集散地として賑わう。
1785	天明 5	工楽松右衛門が松右衛門帆を制作する。
1824	文政 7	高田屋嘉兵衛が西出鎮守稻荷神社に海上安全を祈願して燈籠を奉納する。北前船の船乗り、北方の開拓者として活躍した。

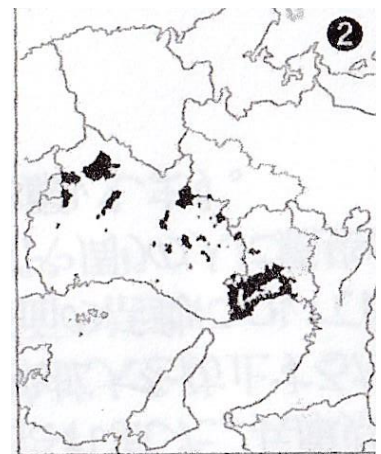
1858	安政 5	幕府は日米修好通商条約を締結、兵庫の開港が決定する
1864	元治元	和田岬砲台完成。
1867	慶応 3	神戸港開港（「兵庫」として開港）
(明治時代) 1868	明治元	兵庫城跡に初代兵庫県庁がおかれる。初代知事に伊藤博文が任命される。
1876	明治 9	新川運河完成
1899	明治 32	兵庫運河完成

## 兵庫県の成り立ちは？

2018年（平成30年）に県政150周年を迎えた兵庫県は、一体どのような変遷を経て現在の形になったのであろうか。

### (1) 第一次兵庫県

明治維新後、新政府は1868年（慶応4年、明治元年）大名領を「藩」として旧大名による統治を継続させる一方で、旧幕府領は新政府が没収し新しい地方行政機関として、「府・県」を置いた。**（府藩県三治制）**  
この時に兵庫津周辺や播磨の旧幕府領を管轄する兵庫県が設置された。この時には範囲は狭く、かつ、いくつもの飛び地から成り立っていた。



第1次兵庫県  
慶応4年5月

### (2) 第二次兵庫県

1871年（明治4年）7月**廃藩置県**が実施され、藩はそのまま県となり、現在の兵庫県域には30を超える県が成立した。（この時は兵庫県自体は変動なし。）

この年第二弾として11月に行政区画の全面的な見直しが行われ、府県の統廃合が進められた。その結果現在の兵庫県域は兵庫・飾磨（当初は姫路であったが、その名が幕藩体制を連想させるとして変更）・豊岡・名東

（みょうどう）の4県に集約された。この時の兵庫県は摂津の西部5郡を管轄するのみで、飾磨・豊岡の両県に比べるとはるかに小規模の県であった。



第2次兵庫県  
明治4年11月

### (3) 第三次兵庫県

1876年（明治9年）政府は大幅な府県統廃合を実施した。飾磨県と豊岡・名東両県の一部が兵庫県に併合され、摂津・丹波・播磨・但馬・淡路を一纏めにした現在の広大な県域がほぼ完成された。「大兵庫県」の誕生である。

## (1) 兵庫県立兵庫津ミュージアム

兵庫津ミュージアムは、兵庫津の歴史、県の成り立ち、県を構成する五国の魅力や多様性を発信する拠点である。博物館施設である「ひょうごはじまり館」（今年11月開館）と最初の県庁舎を復元した「初代県庁館」（昨年11月開館）の二つの施設が一体となった新しいミュージアムです。



### ① ひょうごはじまり館

千年を超える歴史を誇る港湾都市兵庫津の歴史、独自の過程をたどった兵庫県の成り立ち、ひょうご五国（摂津・丹波・播磨・但馬・淡路）の魅力を伝える博物館施設です。

### ② 初代県庁館

兵庫県誕生時に県庁が置かれた旧大坂町奉行所兵庫謹番所を、残された絵図等に基づいて復元した施設です。初代知事伊藤博文が執務した兵庫県誕生の歴史的空間を体感できる。また、館内では三次元映像で兵庫県のはじまりを見ることができる。

## (2) 兵庫城跡

1578年（天正6年）有岡城主荒木村重が織田信長に叛いたため、村重の支城だった花隈城を信長の武将池田恒興が落城させた。信長はこの功績に報いるため恒興に西摂のほとんどを与えた。彼は花隈城には入らず、兵庫津に城を築いた。その際花隈城を取り壊し、その石を利用して兵庫城を築いたようである。彼はわずか2年在城したのみで美濃国に移された。

大坂落城後は尼崎藩領になり、兵庫陣屋と呼ばれた。その後1769年（明和6年）幕府の直轄地になり、ここに勤番所が置かれた。

兵庫港の改修・新川運河の掘削により兵庫城跡はほとんど破壊されて運河の下に沈んだ。今は「新川運河キャナルプロムナード」の一角に石碑が建っているのみで、ここに城があったと知る人もほとんどいなくなってしまう。



## (3) 大輪田泊の石椋(いわくら)

昭和27年（1952）に行われた新川運河の浚渫工事の際、このような重量4トンの巨岩が20数個発見された。石椋とは石を積み上げて造られた防波堤や突堤の基礎部分のことで、このような岩をいくつか積み重ね松杭で補強されていた。



出土当時は平清盛が築いた経ヶ島（※）の遺材ではないかと考えられていた。ところが平成15年（2003）にこの石材が発見された近くで、奈良時代後半から平安時代中頃の港湾施設と考えられる遺構と遺物の一部が発見された。これにより、この巨石は大輪田泊の波よけに使った石椋の石材であったと推定されている。

## （4）来迎寺（築島寺）

平清盛が企てた人工島「経ヶ島」（※）の築造とゆかりの深い寺である。けなげな松王丸の菩提を弔うため二条天皇の勅命により建立され、念仏の道場としたのが、この寺であると言われている。境内右手に「松王小児入海」と刻まれた石碑と供養塔があり、その傍らには清盛に寵愛された京の白拍子、祇王と祇女を供養する五輪塔がある。二人は平家一門の冥福を祈って過ごしたという言い伝えがある。



### （※）経ヶ島とは

大輪田泊は地形上南東の風を防ぎようがなく、この方向からの風波をまともに受けて停泊が危険であった。日宋貿易の拠点として当地を重視していた平清盛は承安3年（1173）私財を投じて改修を行った。港の沖に島を築いて防波堤として、船を風から守ろうとした。

しかし想像を絶する難工事で、陰陽師に占わせると「人柱30人を沈めて龍神を鎮めよ」とでた。そこで隠れ関を設けて往来する旅人を捕えようとしたが、清盛に仕えていた17才の松王丸が志願して人柱の身代わりとなって入水したと伝えられている。

「平家物語」には、人柱は仏の道にそむくので、代わりに一切経を書写した経石を沈めたため「経ヶ島」と呼ばれるようになったと記されている。実際の工事は清盛の生存中には完成せず、建久7年（1196）東大寺の重源によって成し遂げられた。

なお「平家物語」では清盛の死後、能福寺の住職円実法眼によりこの経ヶ島に埋葬されたとの記述がある。この経ヶ島がどこにあったのかは、度重なる地形変化等により場所が特定できていない。

## （5）能福寺

桓武天皇の命により唐に留学していた伝教大師最澄が帰途和田岬に上陸し、この地で歓待した庶民によって建てられた堂宇に大師自ら刻んだ薬師如来像を安置し、国の安泰と民の幸福を祈願して能福護国密寺と称したのが寺の創建と伝わる。伝教大師による我が国最初の教化霊場とされる。

- ・**兵庫大仏**……明治24年（1891）に豪商南条莊衛門により建立された。奈良・鎌倉と共に日本三大仏に数えられる。初代は大戦中の昭和19年（1944）5月に解体され、金属として供出された。その後多数の檀徒市民や企業の協賛により47年振りに再建された。平成3年5月の開眼法要には比叡山天台座主を導師として、東大寺管長、鎌倉大仏貫主臨席のもとで盛大に行われた。

大仏の高さは11m、台座の高さは7m、重さ約60トで総工費は約5億円。

- ・北風正造顕彰碑……北風家は兵庫の豪商であり、名主でもあり、「兵庫の北風か、北風の兵庫か」と言われるほどであった。鳥羽伏見の戦いで幕府軍が敗れた後、朝敵となった姫路藩は官軍の追討を受ける運命にあった。その際北風正造が仲裁に入り、軍資金15万両と引き替えに姫路藩攻撃を止めるという和解案で解決した。(この資金を出したのはもちろん北風正造である。)



- ・滝善三郎正信慰霊碑……慶応4年(1868)1月11日神戸三宮付近で警備の備前藩士の行列の前を横切った外国人を傷つけるという「神戸事件」が発生した。備前藩では彼を責任者として各国代表立ち合いのもと、切腹させることで事件の解決を図った。市民は彼を事件の犠牲者として哀れみ、慰霊碑を建てた。

## (6) 札場の辻跡

柳原惣門をくぐって兵庫津に入ると、当時の兵庫津の中心地で会った南仲町の辻に出る。ここで西国街道は不自然なほどに直角に曲がっている。なぜか？それは江戸時代になり人や物が集まる兵庫津の繁栄を取り込むために、ルートが無理やり変更したためである。この直角に曲がった辻に高札(町人への法令や幕府からの布達を掲示する札)を掲げる高札場があった。

ここに「右 和田御崎 左 築嶋寺」の標石があるが、半分ほどが埋まってしまっている。



## (7) 岡方惣会所跡の碑

兵庫津は江戸時代人口約2万人の海陸の要地であった。当時の行政機構は全域を三分し、兵庫宿は「岡方」に、港町は「南浜」と「北浜」に分けた。これを三方(みかた)と称し、大坂町奉行所支配であった。それぞれに惣会所があり、町民より選出された名主や年寄りが町政をとりしきった。

その跡地に昭和2年(1927)兵庫商人の社交場として「岡方倶楽部」が建設された。戦災にも震災にも耐え、奇跡の建物と言われている。当時の雰囲気そのまま残る美しい外観です。ここに平成25年(2013)4月「兵庫津歴史館 岡方倶楽部」が開設された。



## (8) 七宮神社(しちのみやじんじゃ)

生田神社の末社で、東から西へ一宮神社から八宮神社まで八社ある内の一つ。

平清盛が経ヶ島を築くために現在のJR兵庫駅北側にあったという塩樋山を崩して土砂を採取し海岸へ運んだが、突風や荒波で工事がなかなか捗らない。家臣に調べ

させると、難工事の原因は塩樋山の洞穴に祀られていた神の怒りによるものと分かった。そこで大己貴神命（大国主命）を鎮めるために創建したのが七宮神社だと伝えられる。

江戸時代兵庫津は北前船でおおいに栄え、七宮神社は航海安全の神として一層の信仰を集めた。高田屋嘉兵衛が航海安全を祈願して、持船の模型三艘を寄進したが、残念ながら神戸大空襲で焼失した。

祭礼で奉納される「兵庫木遣音頭」は清盛が紀伊から巨木を運ぶ時に、この音頭が唄われたとも伝えられる。歌詞には「梅は岡本、桜は生田、松は兵庫の湊川」とある。

## (9) 湊口惣門跡の碑

湊口惣門は兵庫津の東の出入り口で、西国街道に面していた。ここには番所が置かれ札場があった。湊口の東は旧湊川で慶応元年（1865）まで橋はなく、雨で水量が増えると通行止めとなり、参勤交代の一行や旅人があふれたという。

西の出入り口には柳原惣門があった。

## (10) 巖島神社

安芸の巖島神社を深く信仰する平清盛は、治承4年（1180）福原遷都にあたり守護神として弁財天を勧請して祀った。「兵庫七弁天」の一つである。当社の縁起によれば、清盛が兵庫の港に築島を築こうとした時、ある夜天女が夢に現れ「私は安芸国の巖島明神である。この海を暴風雨から守り、汝の志を能く成就せしめんがために来たのである。篤く信仰して必ず疑うことなかれ」とお告げがあったという。清盛は喜び、兵庫の港の守り神として明神を祀ったとか。



かつて本殿の裏に樹齢千年に及ぶ「伝龍燈の松」と呼ばれる老松があった。清盛が巖島明神をお祀りする場所を探していた時、松の梢に燈火がかかるといふ奇瑞があり、この地に決めたと伝えられている。

また、この付近は旧湊川の川筋で地下水も豊富に湧出し、湧き水のようになっていたといわれ、昔は「渦輪（うずわ）」ともよばれていた。そこで清盛は治水のためにこの神社を建立したとも言われている。

(次回予告)

(2023. 1. 14)

**兵庫史を歩く No. 32 播州名松めぐり**

**播磨路で今年一年の安全祈願しましょう**

